

## 努力事項解説 その1 (小学校音楽)

「学校教育指導の重点」小学校音楽の努力事項をひとつずつ解説していきます。今回は、学習指導要領に照らして、以下について考えてみます。(なお、この努力事項は、小学校中学校共通です。)

題材の目標を焦点化し、内容を厳選し、教材のねらいを明確にしましょう

### 1 題材の目標を焦点化するとはどういうことなのでしょうか？

焦点とは「話や物事の中で最も重要な部分」(英語で「フォーカス」、オランダ語で「ピント」)、焦点化するとは「話や物事の中で最も重要な部分を明確にする」という意味です。生活の中で「ピントを合わせる」をよく使うと思います。

右の写真を見てください。ピントが合わせられている赤ちゃんの顔はとても鮮明で、見る人の意識はあかちゃんの顔に向けられます。つまり「写真で最も重要な部分(赤ちゃんの顔)を焦点化している」となります。

では「題材の目標を焦点化する」とはどういうことでしょうか? 「話や物事」を「題材の目標」と置き換え

「題材の目標」を決めるときは

**「最も重要な内容」にピントを合わせましょう**

となります。ここでピントを合わせるのは「最も重要な内容」ですから「学習指導要領の指導内容」、特に**「共通事項」**を**含んだ内容**にすることが大きなポイントです。



物事の肝心なところを外してしまうことを「ピント外れ」といいますね。題材の目標が焦点化されていない、つまり、題材の目標がピント外れでは子どもたちがかわいそうですね。



### 2 題材の内容を厳選するとはどういうことなのでしょうか？

厳選するとは、「厳重に選択すること。厳しい規準で選び出すこと。(例：原料を一する)」という意味です。

これをもとに考えると、題材の内容を厳選するとは、

学習指導要領の内容や共通事項に照らし合わせて、**きびしい規準**で題材の内容を選びましょう。

となります。これこそが「この題材で指導すべき内容に絞り込む」ということです。



### 3 教材のねらいを明確にするとはどういうことなのでしょうか？

教材のねらいを明確にするとは、

「何を指導するのか取り扱う楽曲のレベルではっきりさせる」ということです。

指導案の題材設定の理由の「教材観」に当たる内容と考えるといいと思います。

教材観では、取り扱う楽曲の音楽的な特徴を明らかにして、その音楽的特徴と題材のねらいとの関係をはっきりさせます。

例えば、リズムについて指導するのであれば、取り扱う楽曲のリズムの特徴を、和音の指導をするのであれば和音の特徴を、この楽曲はリズムや和音にこういう特徴があるから、リズムや和音をねらいとしている、この題材のねらいを達成するためにふさわしい楽曲だ。と記載すると思います。

題材のねらいや本時のねらいを、楽曲のどの部分で指導するのかを明確にして指導に臨みましょう。

♪ねらいは～♪  
♪とってもお大きい～♪  
♪ピントはずれに  
ならないでえ～♪



目標を意識して、これこそが必ず指導しなければという内容を、楽曲のどこで（なにで）指導するかはっきりさせて授業に臨みましょう。子どもたちが「できた!わかった!」と覚えることができる授業への第一歩です!

ねらいはとてとても大切!

重要!!

挨拶は大きな声で元気よく!

次回は、今回の努力事項を小学校4年生の題材「ひょうしとせんりつ」で具体的に考えてみます。

6月7日（金）頃アップの予定です。

